

## 共同研究グループ活動報告（2017年度）

### 日中関係史

メンバーの多くが神奈川大学共同研究奨励助成の共同研究「日中関係史と学知の交流——中国人留学生を中心に」に参加している。このため本年度は以下の通り、中国人留学生史研究会と研究活動を共にした。

1. 研究会例会の開催：2017年4月22日，6月24日，9月30日，12月17日，2018年2月3日
2. 拡大例会の開催：2018年3月3日「中国人留学生が直面した諸問題について」，3月25日「近代日中関係と留学生文学」（予定）
3. 国際シンポジウムへの参加：2017年5月20日，中国大連 遼寧師範大学「東亜教育交流視野下的中日留学生史研究」，2017年8月26～27日，中国天津 南開大学「第二屆“留學生与中外文化”國際學術研討会」

来年度は神奈川大学で日中関係と留学生に関する国際シンポジウムを主催する予定であり，その研究成果を研究書としてまとめる計画を進めている。また研究グループ単独の講演会なども行いたいと考えている。

（文責 中村みどり）

### 色彩と文化IV

「言語景観」を外国語教育に応用できる方法を中心に研究会活動をすすめている。

#### (1) 研究会の開催：

日時：11月20日（月） 16：30～18：00

発表者1：小林潔（本学非常勤講師）

テーマ：「ロシアの言語景観とロシア語教育への応用——アストラハンでの事例をもとに」

発表者2：尹亭仁（本学教員）

テーマ：「ソウルの言語景観と韓国語教育への応

用——地下鉄2号線の駅名の漢字表示を中心に」

#### (2) 海外調査

小林潔は，2017年8月24日～9月2日までロシア連邦アストラハン市に滞在，アストラハン大学留学生露語教育担当者との面談，日本語学校訪問，言語景観の調査などを行なった。言語景観関連では，交通機関・公共機関におけるロシア語を中心とした言語使用状況を調査した。これは実際の言語使用を踏まえた言語教育に繋がるものである，と報告している。

佐藤裕美は，2018年2月3日からオーストラリアのタスマニアに出張を予定している。タスマニアで英語教育に応用できる看板や禁止表示など英語の景観を調べる計画である。

尹亭仁は，2017年10月26日～29日の4日間ソウルに滞在，地下鉄2号線の駅名の漢字表示を中心に景観について調査した。調査の中間報告として11月20日に研究会で発表を行なった。

2018年度より調査の結果を研究会で発表するなど，共同研究を本格化していく予定である。

（文責 尹亭仁）

### 言語変異研究

1. 研究内容：今年度は主に言語と社会の関係に関する総合的な研究を行った。特に歴史的言語景観に関するテーマと異文化語用論のテーマに関する調査研究と論文執筆を行った。

#### 2. 今年度の主な研究成果：

(1) 「百年前ころの上海の景観言語と景観文字の記述研究」『人文学研究所報』No 59

神奈川大学人文学研究所 2018年3月

(2) 「上海の都市形成期における言語景観——歴史社会言語学の事例研究」『神奈川大学言語研究』No 40

神奈川大学言語研究センター 2018年3月

- (3) 「日中命題モダリティの異文化語用論の探究 — 「過剰含意」発生メカニズム」  
『社会言語科学』 Vol. 21-No. 2 日本社会言語科学会 2018年9月(予定)
3. 今年度の研究所蔵資料の収集：  
『宋画全集』第5巻(1, 2冊), 『元画全集』第3巻(2, 3冊), 第5巻(3, 4冊)
4. 2018年度も引き続き歴史言語景観と異文化語用論について研究調査を実施する予定である。  
(文責 彭国躍)

### 〈身体〉とジェンダー

1. 講演会・研究会の開催
- ・研究会立ち上げミーティング  
開催日：2017年4月12日(水)  
会場：17-215
  - ・第1回研究会  
開催日：2017年9月27日(水)  
会場：17-216  
発表者(所属)：熊谷謙介(外国語学部・国際文化)  
演題：「ジャンヌ・ダルクからジュピターへ — 戦後フランスの男性権力表象」
  - ・第2回研究会  
開催日：2018年1月24日(水)  
会場：17-216  
発表者(所属)：太田貴(技能実習生制度監理団体職員, 本学外国語学部・国際文化交流学科OB)  
演題：「結婚できない男性」が国際結婚で「男」になる — 日比国際結婚研究にみる日本人男性のディスコース」
  - ・第3回研究会  
開催日：2018年1月31日(水)  
会場：17-216  
発表者(所属)：シモン・サルブラン(外国語学部・国際文化)  
演題：「同性婚反対運動とフランスにおける反動論の新しい姿」
2. シンポジウムの開催 なし
3. 活動内容

〈身体〉とジェンダー研究会は『68年の〈性〉』を2015年度に出版したが、その後続く企画を打ち立てるべく、4月12日にミーティングを行い、男性表象をテーマにした叢書の出版(2018年度)を目指して発表を組織していくことに決まった。第1回研究会ではフランス大統領を中心とした男性権力表象をテーマに発表・ディスカッションが行われ、その成果は『神奈川大学評論』第88号に寄稿された論考となった。第2回研究会では結婚社会学・多文化共生の分野から、女性に比べてあまり注目されてこなかった、フィリピン人女性と結婚した「日本人男性」が分析された。そして第3回研究会では、社会学の観点から、フランスで2015年に可決した同性婚に対する反対運動が論じられた。来年度は文学・芸術における男性表象についても目を向けることで、男性学と平行して徐々に脚光を浴び始めている男性表象論を形にしていきたいと思う。

(文責 熊谷謙介)

### 自然観の東西比較

1. 講演会・研究会の開催
- 第1回研究会  
開催日：2017年4月26日(水)  
会場：17-216  
発表者：坪井雅史(神奈川大学外国語学部教授)  
演題：長州捕鯨と、近代捕鯨基地としての下関についての調査報告
- 第2回研究会  
開催日：2017年5月24日(水)  
会場：20号館, 20-417A(大学院演習室)  
発表者：村井まや子(神奈川大学外国語学部教授)  
演題：〈飼い馴らされた〉自然 — エイミー・スタインの写真が語る動物との遭遇をめぐる現代のおとぎ話
- 第3回研究会  
開催日：2017年6月21日(水)  
会場：17-216

発表者：上原雅文（神奈川大学外国語学部教授）、坪井雅史（同）、大川真由子（同大学准教授）、伊坂青司（同大学教授）

演題：来年度刊行の「叢書」論文の内容についてそれぞれ報告、および議論

#### 第4回研究会

開催日：2017年7月27日（水）

会場：17-315

発表者：鳥越輝昭（神奈川大学外国語学部教授）、山本信太郎（同大学准教授）

演題：来年度刊行の「叢書」論文の内容についてそれぞれ報告、および議論

#### 第5回研究会

開催日：2017年9月27日（水）

会場：17-315

発表者：村井まや子（神奈川大学教授）、小熊誠（同）

演題：来年度刊行の「叢書」論文の内容についてそれぞれ報告、および議論

#### 第6回研究会

開催日：2017年10月25日（水）

会場：17-216

発表者：中林広一（神奈川大学准教授）

演題：中国の「自然観」とその前提——「関係」と「公共」の関わりを起点として

#### 第1回講演会

開催日：2017年11月29日（水）

会場：3号館401号室

発表者：八幡さくら（東京大学大学院「多文化共生・統合人間学プログラム」(IHS)・特任研究員 (PD))

演題：シェリングの風景画論における調和的統一——自然精神と音楽的統一

#### 第7回研究会（予定）

開催日：2018年3月7日（水）

会場：17-216

演題：自然と世界史のなかの神々

#### 第8回研究会（予定）

開催日：2018年3月30日（金）

会場：17-216

演題：イギリスの自然観調査の報告

### 2. シンポジウムの開催

なし

### 3. 活動内容

本研究グループは、2015年度から神奈川大学共同研究奨励助成金の交付を受け、研究計画に沿って活動している。本年度が助成金交付の最終年度であり、研究の総括として、来年度刊行予定の「叢書」に執筆する論文の構想について各自が発表し、内容と構成について議論した。また、通常の研究会、グループ外の研究者を招いての研究会、研究調査およびその報告会も実施した。外部講師を招いての講演会は1回開催し、学生や大学院生の参加もあり、活発な議論が交わされた。研究グループの研究の進展にとっても研究の公開の意味でも大変有益であった。

（文責 上原雅文）

### ヒト身体の文化的起源

#### 活動内容

① 人間の身体を系統的に遡り、その根源を考察することで、身体が持つ機能的な意義を検討した。

I 関節運動を増幅するアキレス腱の屈曲点について調査・研究を進め、下記の論文を執筆した。この論文は現在、審査中である。

・ A Multi-modality Approach Towards Elucidation of the Mechanism for Human Achilles Tendon Bending During Passive Ankle Rotation.

また、下記の学会での発表を行った。

・ アキレス腱の湾曲を考慮した腱スティフネスの評価。第72回日本体力医学会（松山大学@松山市，平成29年9月16日-18日，2017）

さらに、下記の研究会で話題提供を行う。

・ アキレス腱の湾曲のメカニズムと機能的意義。3rd Muscle Biomechanics Imaging seminar（札幌医科大学@札幌市，平成30年2月17日，2018）

（文責 衣笠竜太）

### 帝国とナショナリズムの言説空間

#### 1. 研究会の開催

第1回：2017年6月17日（土）：午後4時～6時  
 場所：17-401号室  
 （横浜キャンパス・人間科学部社会コース共同研究室）  
 講師：松本和也氏（神奈川大学外国語学部教授）  
 発表論題：「文学（者）からみた軍政下シンガポール  
 ——井伏鱒二『花の町』を手がかりに」

第2回：2017年11月18日（土）：午後4時～6時  
 場所：17-401号室  
 （横浜キャンパス・人間科学部社会コース共同研究室）  
 講師：関根康正氏（関西学院大学社会学部教授）  
 発表論題：「ストリート人類学の挑戦  
 ——ロンドンの南アジア系移民の場合」

## 2. 活動内容

2014—2016年度神奈川大学共同奨励研究助成金「帝国とナショナリズムの言説空間：国際比較と相互連携の総合的研究」の成果として、神奈川大学人文学研究所叢書『帝国とナショナリズムの言説空間：国際比較と相互連携』（御茶の水書房）を2017年度末に刊行を予定している。  
 （文責 永野善子）

## NCH 新聞研究会

1. 研究内容：本研究会は、神奈川大学が所蔵するNCH（North China Herald）新聞（ONLINE版）の日本、中国、韓国、東南アジア諸国に関連する新聞記事の研究を目指している。
2. 活動内容：研究会の構成員が『良友』画報研究会 <http://liangyou.jugem.jp/>、中国人留学生史研究会 <http://chineseovers.jugem.jp/> と重複するため研究会単独での活動は活発ではなく、10月28日にワークショップ「上海租界と外国人社会について」を共同開催するだけであった。2018年度はより活発な活動を展開したい。

日時：2017年10月28日  
 場所：神奈川大学横浜キャンパス3号館406室  
 主催：神奈川大学『良友』画報研究会  
 共催：神奈川大学非文字研究資料センター・上海社会科学院歴史研究所・NCH新聞研究会  
 司会：孫安石（神奈川大学）  
 （一）「上海のユダヤ人研究の最新動向について」王健（上海社会科学院歴史研究所）  
 （二）「日本軍政下の上海におけるユダヤ絶滅政策の存否をめぐって」菅野賢治（東京理科大学）  
 （三）「上海のフランス語新聞 Le Journal de Shanghai における日・仏・中文化交流」趙怡（東京工業大学非常勤）  
 （四）「ドイツの版画と上海の魯迅」東家友子（東京大学大学院博士後期課程）  
 【質疑応答】熊谷謙介（神奈川大学）、大橋毅彦（関西学院大学）、菊池敏夫（神奈川大学）、石川照子（大妻女子大学）

（文責 孫安石）

## 声の文化

今年度は以下のとおり研究会を2回実施した。  
 日時：7月5日（水）17：30-19：00  
 場所：人文学研究所資料室（17-216号室）  
 報告者：渡部かなえ（本学人間科学部教授）  
 タイトル：人の声（Vocal）が持つ力  
 日時：10月4日（水）17：30-19：00  
 場所：人文学研究所資料室（17-216号室）  
 報告者：深澤徹  
 タイトル：現実界（ル・レエル）の〈声〉を聴く。  
 ——ラカン理論の応用で『方丈記』テキストを読んでみたい——  
 来年度は前期と後期に研究会を実施することに加えて、外部講師による講演会の開催を予定している。  
 （文責 村井まや子）

## 日韓対照言語研究

「日韓対照言語研究」は「日韓両言語におけるヴォイス・テンス・アスペクト・モダリティの対照研究」を当面の課題として掲げ、研究活動をすすめている。

### (1) 研究会の開催

日時：12月14日（木）16：30～18：00

発表者1：高木南欧子（本学教員）

テーマ：「否定の表現について」

発表者2：尹亭仁（本学教員）

テーマ：「[V-てある]」に対応する韓国語の表現について」

年2回以上の研究会を計画しており、来年度は日本語を軸に対照言語研究の観点から研究対象を中国語やスペイン語などの「テンス・アスペクト」にも拡大する予定である。また海外の対照研究を行なっている研究者にも声をかけ、研究発表を依頼する予定である。

（文責 尹亭仁）

## 各国近代文学の研究

### 1. 講演会・研究会の開催

#### 第1回研究会

開催日：2017年10月4日

会場：17-315

発表者：熊谷謙介

（神奈川大学外国語学部准教授）

中村みどり

（神奈川大学外国語学部准教授）

古屋耕平

（神奈川大学外国語学部准教授）

松本和也

（神奈川大学外国語学部教授）

演題：（共通テーマ）

各国近代文学研究の現状と展望

#### 第2回研究会（講演会）

開催日：2017年11月29日

会場：20-433

講演者：八木君人（早稲田大学文学学術院）

演題：初期ソヴィエトの文芸学・文芸批評の場

### 2. 活動内容

本研究グループは、今年度から活動を開始した。研究対象の時期的な重なりを基軸に据えながらも、研究をめぐる方法や環境・場の異なりについて相互に意識し、意見交換をしながら、領域横断的な近代文学研究の方向性を模索していく。今年度は、第1回研究会において、メンバー全員がそれぞれの専門の立場から現状を報告し、それに即した意見交換を行った。また、講演会では、ロシア文学を専門とする八木君人氏を招いて、「初期ソヴィエトの文芸学・文芸批評の場」という演題でご講演頂いた。

（文責 松本和也）

## 知覚認知システムの普遍性と多様性

講演会・研究会の開催：

開催日：2018年2月20日（木）15：00～16：30

会場：25号館301室、講演者（所属）：岡嶋克典  
（横浜国立大学大学院環境情報研究院教授）

演題：「質感の視覚科学と画像工学」

シンポジウムの開催：なし

活動内容：

本研究グループは本年度9月に人間科学部の吉澤、前原、松永（敬称略）の3名で発足した。

この研究グループは、人の知覚・認知の仕組みについて、研究することを目標としており、特に、知覚の様相や認知的様相に共通な普遍性とそれらの様相の相互効果によって展開した多様性を現象・行動観察や計算論的解析などを通して明らかにする活動を行うために共同で取り組んでいる。発足後間もないため、共同研究での成果はまだないが、メンバーがそれぞれに目標に向かって以下の研究活動を行なった。その概要を述べる。

吉澤は運動対象を視覚的に検出する仕組みについて心理物理学実験を行い、これまで検出信号と考えられていなかった主観的輪郭の情報が有効に機能していることを示し、国際会議（European Conference on Visual Perception）において報告した。

前原は、片眼弱視患者と健常者の眼間運動速度マッチングという課題を用いた心理物理学実験の結果から両者に課題に対するパフォーマンスの差がなく、弱視患者は閾上の運動視処理には障害がないことを国内会議（日本視覚学会 2018 年冬季大会）において報告をした。

松永は、音楽文化の異なる聞き手の調性知覚を直接比較し、日本人、中国人、ベトナム人、インドネシア人、アメリカ人の調性知覚が文化によって異なることを実証し、国際会議（The 6th Conference of the Asian-Pacific Society for the Cognitive Sciences of Music）において、その成果を報告した。

これらの研究成果をもとに今後、共同プロジェクトなどを通してグループの目標とする課題を解明する予定である。

（文責 吉澤達也）